

南三陸町仮設住宅団地にコミュニティー図書館を寄贈

倉敷東RC 遠藤 堯之



6月28日、宮城県南三陸町で最大の仮設住宅団地のある平成の森運動公園で、第2690地区主導による同町支援プロジェクト「歌津コミュニティ図書館・魚竜」の贈呈式を開催。佐藤仁町長、第2690地区の伊藤文利ガバナー、第2780地区森洋ガバナー、第2520地区（岩手県・宮城県）の菅原一博ガバナーら関係者によるテープカットが行われ、佐藤町長から「町民のオアシスとして有効に活用し、復興のシンボルとして魚竜化石を展示したい」とお礼の言葉がありました。

津波で壊滅的な被害を受けた南三陸町は、約1万人が一時避難所生活を余儀なくされ、現在も多くの被災者が仮設住宅で不自由な暮らしを続けています。

仮設住宅団地では、被災者たちの引きこもりの問題、子どもたちの遊び場の喪失、学習環境の悪化、コミュニティーの喪失など多くの問題が発生しました。また、全国から約1万冊もの図書が寄せられましたが、図書館が流出したためうまく利用できていません。こういう問題を解決するために、住民の団らん・癒やしの場を兼ねた図書館を建てたいという要望が、同町教育委員会から倉敷東ロータリークラブ（RC）を通じて第2690地区の伊藤ガバナーに伝えられました。

当クラブは、昨年、友好クラブの宮城県・築館RCと協力してイタリアおよび台湾のロータリークラブとのマッチング・グラントにより、南三陸町にマイクロバスなど5台の車両を寄贈しています。この縁で、町との交流のなかから、図書館建設支援の強い要望が出てきました。その

計画の具体化のため、昨年お世話になった当時の第2520地区補助金委員長・笹氣光寿郎会員（仙台RC）に、現地での協力をお願いしました。

問題は資金計画でしたが、新たに地区内から寄付を募り、地区資金も加え東日本震災復興基金の補助金を申請しました。しかしながら、建築費の高騰もあり、予算的に行き詰まりました。最終的に、地区諮問委員会の理解を得て資金増額を認めてもらい、それに呼応し、東日本震災復興基金からの高額補助金も正式に認可されました。さらに大変ありがたいことに、第2520地区と第2780地区から多額の援助申し出があり、ついに図書館建設プロジェクトの第一歩を踏み出すことができました。

この図書館には、町のシンボルである世界的に有名な天然記念物「魚竜化石」にちなみ「魚竜」という名前がついています。歌津海岸にあった町の博物館「魚竜館」は、津波に襲われ魚竜化石や民俗資料が破壊されてしまいました。これを、東北大学総合学術博物館がレスキュー隊を作り、救出し、修復しています。

この図書館では、読書はもちろん、パソコンでの文書作成、ITでの情報取得、大型テレビを使った映像防災教育や資料閲覧もできます。また、万が一、災害が発生した時には情報が取得できるよう、ソーラー式ライト付きラジオを備えています。

私たちはこの施設完成が南三陸町の文化面、生活面での起爆剤となり、町の復興に大きく貢献することを強く望んでいます。最後に、このプロジェクト実施に際し、終始、物心両面の温かいご支援をいただいた多くの皆さんに対してもう一度感謝の誠をささげてお礼に代えます。

（第2690地区 岡山県・島根県・鳥取県）

※ 肩書きは当時のものです。

